

施策評価表

平成28年度分

①	施策コード	6・1・9	評価担当課	商工観光課	総合戦略	行政経営	過疎
②	施策名	6次産業化の推進			○		
③	目標	農林業の振興（基盤整備や経営指導など）に満足している町民の割合					
④	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本町の農業は、稲作と畜産が大半を占めています。近年では新たな柱の一つとして園芸作物（プロقوقリーや小菊など）の振興にも力を入れています。また、本町は平沼地から中山間地域までを有していることから、地域の特性を活かした農業の展開が求められています。 ◆ 農業を取り巻く情勢は厳しさを増していますが、本町においても例外ではなく、農業者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加など問題は深刻化しています。本町においては、農業生産基盤の整備や生産技術の向上、将来的な農業の担い手対策など、これらの課題に対応するための取組みを行っています。 ◆ 畜産についても、農家数は減少しておりますが、酪農は、中核的農家の規模拡大が進んでいる一方で、繁殖和牛は小規模農家が多く、飼養頭数は減少傾向にあります。 ◆ 食の安全・安心志向への高まりの中、引き続き環境保全型農業を進めていくとともに、消費者との交流を深めながら、顔の見える農業や地産地消に取り組んでいく必要があります。また、高齢者や女性グループを中心に農産物の加工や直売所などでの販売も広がりをみせており、本町ならではの特産品開発や6次産業化に期待が寄せられています。 ◆ 森林は、本町の行政区域面積の7割を占め、木材生産のほか水源涵養等の多面的機能を有しており重要な役割を担っています。そのため、町の森林整備計画に基づき、貴重な財産である自然環境の保全や水資源の涵養などのため森林の整備に努めるほか、都市住民との交流の場、環境学習の場として活用していくなど、総合的な地域林業の振興が求められます。 		施策の内容	本町の地形を生かして生産される様々な農林産物等を原料とし、生産者自らが加工・販売まで行う6次産業化を推進し、多角的な農業経営により所得向上を図ります。		

⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
6次産業事業主数	名	24	24	25	26	28	29	30
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI	単位	基準値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
6次産業事業主数	名	24	24	25	26	28	29	30

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

構成事務事業の事業費の合計	27年度	28年度	29年度(計画)	30年度(計画)	31年度(計画)
	1,071	11,948	3,780	3,780	3,280

1年間の取組の総括

⑧	1年間の主な取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品開発・販売促進事業について、仙南地域地場産業振興協議会を通じた地場特産品の物産展へ参加し、PR活動を実施したことで、販路拡大を図る効果があった。 ・農産加工品販売促進事業について、農産加工品即売会に参加し、周知活動を実施したが、販売促進効果は弱い。 ・特産品開発支援事業について、特産品の開発1件に対して補助金を交付することで、開発を促進する効果があった。 ・地域資源活用事業について、桑園管理を適切に実施し、桑パウダーの加工販売を行った。 ・中山間地域伝統特産品振興対策事業を実施したことで、特産品の出荷量拡大に寄与した。 ・丸森町農産物ブランド化支援事業について、農産物のブランド化を推進するため、ブランド化戦略と6次化戦略の策定を行った。
⑨	施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	<p>◎</p> <p>【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要</p>

今後の取組

⑩	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産品(特産品)の販路拡大により結びつく具体的な取り組みを検討・協議し、実施する。 ・特産品開発に対する補助事業について、関係機関と協議・連携を図りつつ事業を継続し、引き続き特産品化を支援する。 ・桑園圃場について、維持管理を継続しつつ、協定満了後の動向を協議する。 ・特産品の生産拡大のため、振興事業に対する補助金交付を継続するとともに、同事業の周知活動に注力する。
---	-------	---

⑪	次年度以降の方針 (担当課)	現状維持	【説明欄】
	委員会評価	現状維持	【委員会意見欄】